

NAJ 自販機を地域の目、に

カメラ・通信回線を搭載

小学生の通学監視

春に大阪で
来実大
験大

NAJ(大阪市中央区、宮野渉社長、06・62333・6511)は、無人の飲料自動販売機を「地域の目」に活用する取り組みを始めた。通学路周辺の自販機にカメラとブロードバンド回線を取り付け、子供の登下校時の安全を見守るもの。カメラの映像はインターネットを通じて遠隔から確認する。実用化を見据えた実証実験として、06年5月まで実施する計画だ。

実験は帝塚山学院小学校(大阪市住吉区、山本卓校長)の協力を得て同校周辺で行う。カメラを

時にタグを読み取り、情報を管理する実験も併せて行う。位置情報を検知するほか、登下校時刻を

保護者の携帯電話やパソコンに電子メールで知らせることも可能だ。また、カメラを搭載した自販機にICタグのリーダーを取り付け、映像とタグを連動したシステムの

NAJは学校や保護者のニーズを探り、それを機能に反映させる。実験を通じてNAJはサービスを確立し、学校単位でシステム環境を提供していく。

映像は常時、NAJが構築したサーバに保存し、管理する。自販機ネットワークの整備にあたり、ホーキング(東京都中央区、宮岡皓社長、03・3949・5590)と提携した。

同小学校ではICタグを生徒に持たせ、登下校の取り組みを、ITでどこ

まで補完できるのかを技術、運用の両面から検証

一連の実験で、保護者が通学路に立つといった地域ぐるみの犯罪抑止の取り組みを、ITでどこ